

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-307036

(43)公開日 平成6年(1994)11月1日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

E 0 4 D 13/06

識別記号

1 0 2 C 7416-2E

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平5-101360

(22)出願日 平成5年(1993)4月27日

(71)出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72)発明者 福島 崇文

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

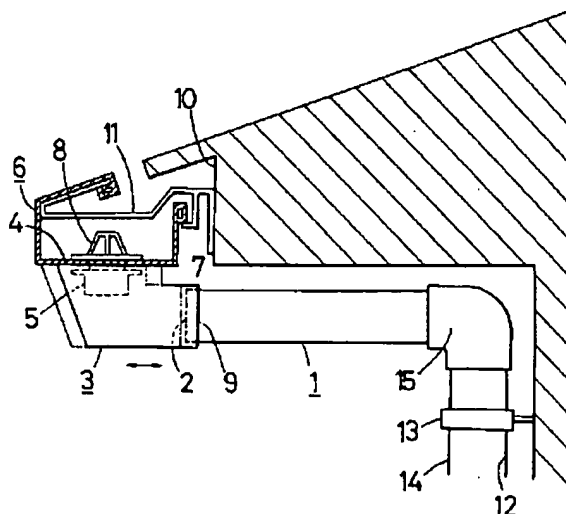
(74)代理人 弁理士 佐藤 成示 (外1名)

(54)【発明の名称】 呼び樋接続具及び呼び樋接続方法

(57)【要約】

【目的】 軒樋に設けられるアンコーの後端と呼び樋の前端とを、無理なく容易に嵌合接続することができる呼び樋接続具及び呼び樋接続方法を提供する。

【構成】 呼び樋1の前端2に接続されるエルボ状のアンコー3と、このアンコー3の上端開口部4に前後方向スライド自在に取着されるドレン固定部材5と、このドレン固定部材5上に軒樋6の底部7を介して連通結合される排水ドレン8とでなる呼び樋接続具であり、軒樋6の底部7にドレン固定部材5を介して取着された状態にあるアンコー3が前後方向にスライドされて、このアンコー3の後端9と呼び樋1の前端2とが接続される。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 呼び樋の前端に接続されるエルボ状のアンコーと、該アンコーの上端開口部に前後方向スライド自在に取着されるドレン固定部材と、該ドレン固定部材上に軒樋の底部を介して連通結合される排水ドレンとでなる呼び樋接続具。

【請求項2】 請求項1)記載の呼び樋接続具にて軒樋の底部と呼び樋の前端とを連通接続する呼び樋接続方法であって、軒樋の底部にドレン固定部材を介して取着された状態にあるアンコーを前後方向にスライドさせて、該アンコーの後端と呼び樋の前端とを接続することを特徴とする呼び樋接続方法。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、軒先に設けられる軒樋の底部と軒下に設けられる呼び樋の前端とを連通接続する呼び樋接続具及び呼び樋接続方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来から、図7に示す如く、軒先に設けられる軒樋(イ)の底部に排水ドレン具(ロ)を設け、該排水ドレン具(ロ)にエルボアンコー(ハ)を介して呼び樋(ニ)の前端を連通接続することは行われている。同排水ドレン具(ロ)は、排水ドレン本体(ホ)とドレン固定部材(ヘ)とでなり、排水ドレン本体(ホ)が軒樋(イ)の底部に穿設される落とし口に上側から挿通され、該排水ドレン本体(ホ)に軒樋(イ)の下側からドレン固定部材(ヘ)が螺合締め付けられ、両者が同軒樋(イ)の底部に挟着されることによって、同軒樋(イ)の底部に取り付けられている。

【0003】又、この場合、軒樋(イ)は角樋形状で、軒先前面(ト)に取着固定される軒樋支持具(チ)によって吊下保持されている。エルボアンコー(ハ)の上端開口部は上記排水ドレン具(ロ)のドレン固定部材(ヘ)の外周に嵌合接続され、同エルボアンコー(ハ)の後端に呼び樋(ニ)の前端が嵌合接続されている。該呼び樋(ニ)は、建物外壁(リ)に取着固定される豎樋支持具(ヌ)によって嵌合保持される豎樋(ル)の上端と上記軒樋(イ)とを接続するものである。又、同呼び樋(ニ)は、豎樋(ル)と同じものを適宜寸法に切断して形成されるものであり、該呼び樋(ニ)の後端はエルボ(オ)を介して豎樋(ル)の上端に嵌合接続されるものである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の技術においては、軒樋(イ)が軒樋支持具(チ)に吊下保持されてエルボアンコー(ハ)の位置が決定されると共に、豎樋(ル)が豎樋支持具(ヌ)に嵌合保持されてエルボ(オ)の位置が決定されるため、該両位置が決定されたエルボアンコー(ハ)とエルボ(オ)との決

2

定された距離間において、呼び樋(ニ)をその両端部を嵌合接続して配設することは極めて困難な接続作業となるものであった。すなわち、従来は、呼び樋(ニ)の後端をエルボ(オ)に嵌合接続した状態で、該エルボ(オ)とエルボアンコー(ハ)との距離を無理に押し広げて、該エルボアンコー(ハ)の後端に同呼び樋(ニ)の前端を嵌合接続している。

【0005】本発明は、上記従来の技術における問題を解決するために発明されたもので、すなわちその課題は、軒先において、軒樋の底部に設けられるアンコーの後端と呼び樋の前端とを、無理なく容易に嵌合接続することができる呼び樋接続具及び呼び樋接続方法を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の請求項1)記載の呼び樋接続具は、呼び樋の前端に接続されるエルボ状のアンコーと、該アンコーの上端開口部に前後方向スライド自在に取着されるドレン固定部材と、該ドレン固定部材上に軒樋の底部を介して連通結合される排水ドレンとでなり、この構成によって上記課題が解決されたものである。

【0007】又、本発明の請求項2)記載の呼び樋接続方法は、上記呼び樋接続具にて軒樋の底部と呼び樋の前端とを連通接続する呼び樋接続方法であって、軒樋の底部にドレン固定部材を介して取着された状態にあるアンコーを前後方向にスライドさせて、該アンコーの後端と呼び樋の前端とを接続することを特徴とするもので、上記課題が解決される方法である。

【0008】

【作用】本発明の請求項1)記載の呼び樋接続具においては、呼び樋の前端に接続されるエルボ状のアンコーと、該アンコーの上端開口部に前後方向スライド自在に取着されるドレン固定部材と、該ドレン固定部材上に軒樋の底部を介して連通結合される排水ドレンとでなるため、軒樋の底部に固定されるドレン固定部材に対してアンコーが前後方向スライド自在となり、本発明の請求項2)記載の呼び樋接続方法の如く、軒樋の底部にドレン固定部材を介して取着された状態にあるアンコーを前後方向にスライドさせて、該アンコーの後端と呼び樋の前端とを接続することができ、軒先において、軒樋の底部に設けられるアンコーの後端と呼び樋の前端とを、無理なく容易に嵌合接続することができるものである。

【0009】

【実施例】図1、図2、図3、図4に示す呼び樋接続具及び呼び樋接続方法は、本発明の一実施例で、呼び樋1の前端2に接続されるエルボ状のアンコー3と、該アンコー3の上端開口部4に前後方向スライド自在に取着されるドレン固定部材5と、該ドレン固定部材5上に軒樋6の底部7を介して連通結合される排水ドレン8とでなる呼び樋接続具であり、又、該呼び樋接続具にて軒樋6

3

の底部7と呼び樋1の前端2とを連通接続する呼び樋接続方法であって、軒樋6の底部7にドレン固定部材5を介して取着された状態にあるアンコー3を前後方向にスライドさせて、該アンコー3の後端9と呼び樋1の前端2とを接続することを特徴とする呼び樋接続方法である。

【0010】軒樋6は、前壁部が前方へ膨出した角樋形状で、合成樹脂内に薄厚金属板がインサートされて一体に押出成形された帯状板材を折曲加工して形成されたものである。又、該軒樋6は、軒先前面10に取着固定される軒樋支持具11によって吊下保持されている。

【0011】呼び樋1は、建物外壁12に取着固定される縦樋支持具13によって嵌合保持される縦樋14の上端と上記軒樋6とを接続するものである。該呼び樋1は、縦樋14と同じものを適宜寸法に切断して形成されるものであり、同呼び樋1の後端はエルボ15を介して縦樋14の上端に嵌合接続されるものである。又、該縦樋14及び呼び樋1は角筒形状で、合成樹脂にて一体に押出成形されたものであり、又、エルボ15は合成樹脂にて一体に射出成形されたものである。

【0012】前記呼び樋1の前端2に接続されるアンコー3は角筒エルボ状で、合成樹脂にて一体に射出成形されたものである。該アンコー3の上端開口部4は矩形状で、該上端開口部4の両側縁部分内面には相対向して摺動溝部16が形成されている。該両摺動溝16に、ドレン固定部材5の上端部分の外周に突設される矩形状の鈎状片部17の両側縁部分が各々摺動自在に係合されることによって、該ドレン固定部材5は同上端開口部4内に前後方向スライド自在に取着されている。この場合、鈎状片部17の両側縁部分の適所に形成される凸部18が、両摺動溝16の適所に形成される凹部19に着脱自在に係止されることによって、ドレン固定部材5に対してアンコー3が定位置に保持される。又、この場合、同凹部19に代えて、図5に示す如く、凸部18に着脱自在に係止される凸段部20を形成しても良い。

【0013】上記ドレン固定部材5及び排水ドレン8は、いずれも合成樹脂にて一体に射出成形されたものである。排水ドレン8には、その上方にゴミ避け部21が突設されると共に、その下方に円筒状の雄ねじ接続部22が垂設されている。該雄ねじ接続部22が軒樋6の底部に穿設される円形の落とし口23に上側から挿通され、同雄ねじ接続部22に軒樋6の下側からドレン固定部材5がその内周に形成される雌ねじ部24が螺合されて締め付けられ、該ドレン固定部材5に取着結合されるアンコー3の上端開口部4の開口縁部分と同排水ドレン8の上端の鈎部分が軒樋6の底部7に挟着されることによって、これら排水ドレン8、ドレン固定部材5、アンコー3は同軒樋6の底部7に取着固定される。この場合、アンコー3だけは、軒樋6に対して前後方向にスライド移動させ得るものである。

4

【0014】したがって、該実施例の呼び樋接続具及び呼び樋接続方法においては、軒樋6の底部7に固定されるドレン固定部材5に対してアンコー3が前後方向スライド自在に設けられるため、該アンコー3を前後方向にスライドさせて、同アンコー3の後端9と呼び樋1の前端2とを、軒先において無理なく容易に嵌合接続することができる。又、この場合、嵌合接続された後、ドレン固定部材5の鈎状片部17の凸部18をアンコー3の摺動溝16の凹部19に係止させて、該アンコー3をスライドしないよう定位置に保持させることができる。又、同アンコー3の上端開口部4の開口縁部分が軒樋6の底部7下面に弾性的に当接されるため、排水ドレン8、ドレン固定部材5、アンコー3が同軒樋6の底部7にがたつきなく安定して取着される。

【0015】なお、本発明の呼び樋接続具及び呼び樋接続方法においては、図6に示す実施例の如きであっても良いものである。すなわち、該実施例の呼び樋接続具及び呼び樋接続方法においては、アンコー3の上端開口部4の両側縁部分内面に相対向して摺動受凸片25が形成され、該両摺動受凸片25の端部には欠如部26が設けられており、ドレン固定部材5の中程外周両側方に突設される両摺動片27が、前記両摺動受凸片25にその欠如部26から挿入されて各々摺動自在に係合されることによって、該ドレン固定部材5は同上端開口部4内に前後方向スライド自在に取着されている。

【0016】又、該実施例においては、ドレン固定部材5の上端の鈎部分と排水ドレン8の上端の鈎部分が軒樋6の底部7に挟着されることによって、該排水ドレン8、ドレン固定部材5及びアンコー3が同軒樋6の底部7に取着固定されている。又、該実施例においては、呼び樋1、アンコー3、ドレン固定部材5、軒樋6、排水ドレン8等が、すべて銅、ステンレス等の金属にて形成されている。

【0017】

【発明の効果】上述の如く、本発明の呼び樋接続具及び呼び樋接続方法においては、軒樋の底部に固定されるドレン固定部材に対してアンコーが前後方向スライド自在に設けられるため、該アンコーを前後方向にスライドさせて、同アンコーの後端と呼び樋の前端とを、軒先において無理なく容易に嵌合接続することができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例である呼び樋接続具の施工状態を示す断面図である。

【図2】同施工状態の分解斜視図である。

【図3】同呼び樋接続具の要部分解斜視図である。

【図4】同呼び樋接続具の平面図である。

【図5】同呼び樋接続具の変形例を示す平面図である。

【図6】別の実施例である呼び樋接続具の施工状態を示す分解斜視図である。

5

6

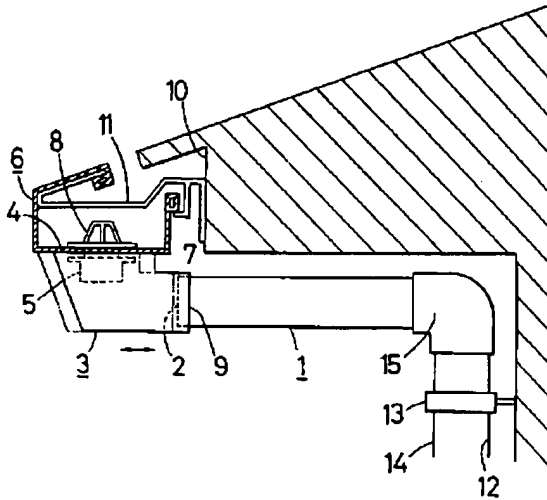
【図7】本発明の従来例である呼び樋接続施工状態を示す断面図である。

【符号の説明】

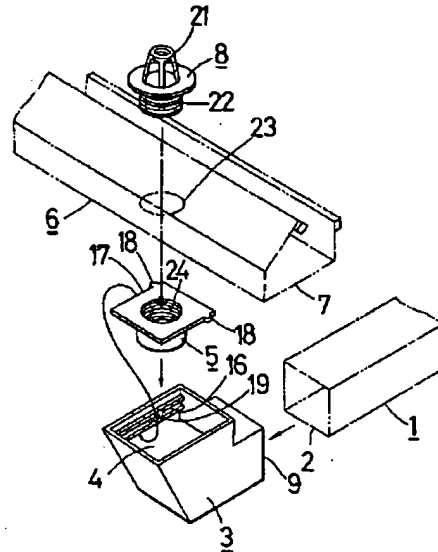
- 1 呼び樋  
2 前端  
3 アンコー

- 4 上端開口部  
5 ドレン固定部材  
6 軒樋  
7 底部  
8 排水ドレン  
9 後端

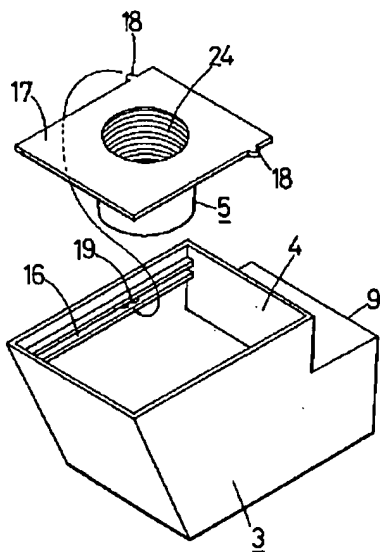
【図1】



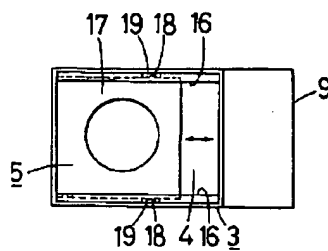
【図2】



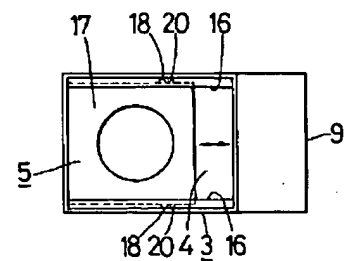
【図3】



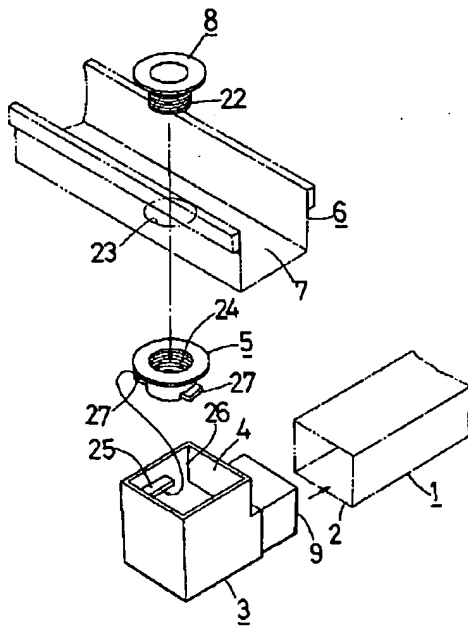
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

